



しろね図書館だより

No. 89

発行 新潟市立白根図書館
平成 19 年 10 月 1 日

❖ 10月の展示架テーマ「食育」(しょくいく)

ついに！待ちに待った新潟市立中央図書館(ほんぽーと)が10月1日にオープンしました！^{新左衛門}の図書館で、ソファや椅子がたくさんあり、くつろいで本を読むことができます。こころの置かさには本は欠かせません。ぜひおでかけください。

~~~~~

月夜の晩に、ボタンが一つ  
波打際に、落ちてゐた。

それを拾つて、役立てようと  
僕は思ったわけでもないが  
なぜだかそれを捨てるに忍びず  
僕はそれを、袂に入れた。

月夜の晩に、ボタンが一つ  
波打際に、落ちてゐた。

それを拾つて、役立てようと  
僕は思ったわけでもないが  
なぜだかそれを捨てるに忍びず  
僕はそれを、袂に入れた。

月夜の晩に、拾つたボタンは  
指先に沁みだ、心に沁みだ。

月夜の晩に、拾つたボタンは  
どつしてそれが、捨てられようか

月夜の浜辺

中原中也

「中原中也詩集」(岩波書店)

911.57

今年が中原中也生誕100年目にあたります。1907年、山口県山口市湯田に軍医の父謙助と母フクの長子として生まれました。中也は幼い頃よりなんでも上手にでき、周囲からは神童と呼ばれていましたが、中学の頃より文学に傾倒し、3年生のときにはついに落第。京都に移り住み、この頃より詩作がはじまりました。そして1937年、30歳にしてその短い生涯を閉じました。

### 9月の

来館者 ----- 18,296 人  
貸出冊数 ----- 15,397 冊  
予約件数 ----- 245 件

ブックバス利用者 ----- 735 人  
ブックバス貸出冊数 ----- 1,835 冊

### リクエスト情報 (しばいお待ち下さい)

- 1位 楽園 上下 (12名)
- 2位 鈍感力 (6名)
- 3位 いつか陽のあたる場所で  
陰日向に咲く  
女性の品格 (4名)
- 4位 幻香 (3名)  
佐賀のがばいばあちゃん

## 子どもたちといっしょに

### 「ぼくのパパはおおとこ」

カール・ノラック 文 イングリッド・ゴドン 絵  
いずみちほこ 訳 (セーラー出版)

今、このたよりを読んでいるおとうさんたちへ。

ぜひぜひ、子どもたちに読んであげてください！おとうさんたちに読んでもらわないと困ります。絵本を読むのはおおかあさん。いえいえ、そんなことはありません。今はおとうさんも子育てに参加している家庭が増えてきています。キャッチボールをしたりキャンプに行ったり、絵本を読むことだってたくさんのおとうさんたちがしています。

小さい子どもには、おとうさんはスーパーマンのように見えていると思います。なぜって、一番身近にいてなんでもできちゃう大きな存在だから。

「せかいいちのパパがいるひとみんなに」というメッセージもつきます。ぜひ、読んでください。

### 第84回読書会

### 「どろぼうの神さま」

コルネーリア・フンケ 著  
細井直子 訳 (WAVE出版)

10月21日(日) 白根学習館ル-ム2 午後2:00~ しろね図書館友の会  
しろね図書館 共催

この物語の中には冒険、友情、希望、魔法... 夢見たたくさんのおとこがまっています。おとなが読んだら子どもに戻り、子どもが読んだらおとなへと一気に成長したように感じるかもしれません。一緒に楽しい話をしましょう。

### 10月の行事

### ブックバス

### \*印は児童のみの貸出

|           |                           |                                                        |           |                      |                                                        |
|-----------|---------------------------|--------------------------------------------------------|-----------|----------------------|--------------------------------------------------------|
| 2<br>(火)  |                           | 根岸小 * 10:10~10:40                                      | 17<br>(水) | 絵本のじかん 3:00~         | 白根北中 13:10~13:50<br>大通小 14:00~15:30                    |
| 3<br>(水)  | 絵本のじかん 3:00~              | 白根北中 13:10~13:50<br>大通小 14:00~15:30                    | 18<br>(木) |                      | 白根中 12:55~13:35<br>白根地C 14:00~14:40<br>左根小 15:00~15:45 |
| 4<br>(木)  |                           | 白根中 12:55~13:35<br>左根地C 14:00~14:40<br>左根小 15:00~15:45 | 19<br>(金) |                      | 白根小 10:10~10:40<br>白根中 12:55~13:35                     |
| 5<br>(金)  |                           | 白根小 10:10~10:40<br>白根中 12:55~13:35                     | 20<br>(土) | おはなし会 3:00~          |                                                        |
| 6<br>(土)  | おはなし会 3:00~               |                                                        | 21<br>(日) | 第84回読書会 2:00~        |                                                        |
| 9<br>(火)  |                           | 月潟中 13:00~13:50                                        | 23<br>(火) |                      | 月潟中 13:00~13:50                                        |
| 10<br>(水) | 第52回おはなし会<br>絵本のじかん 3:00~ | 味方小 13:10~13:50<br>大鷲小 * 14:30~15:45                   | 24<br>(水) | 絵本のじかん 3:00~         | 味方小 13:10~13:50<br>大鷲小 * 14:30~15:45                   |
| 11<br>(木) |                           | 新飯田小 12:35~13:20<br>茨曾根小 13:35~14:35                   | 25<br>(木) | 雑誌リサイクル              | 新飯田小 12:35~13:20<br>茨曾根小 13:35~14:35                   |
| 12<br>(金) |                           | 小林小 * 10:10~10:40<br>白根小 12:55~13:35                   | 26<br>(金) |                      | 小林小 * 10:10~10:40<br>白根小 12:55~13:35                   |
| 13<br>(土) | おはなし会<br>おはなし会 3:00~      |                                                        | 27<br>(土) | おはなし会<br>おはなし会 3:00~ |                                                        |
| 16<br>(火) |                           | 根岸小 * 12:45~13:40                                      | 30<br>(火) |                      | 根岸小 * 10:10~10:40                                      |



古川 日出男 著 (角川書店)  
(一般文庫全三巻 B913.67)

### ものがたり

時は西暦1798年、イスラムの地はいま、存亡の危機を迎えていた。ナポレオン率いるフランス艦隊は、エジプト・カイロの都に迫りつつあった。もはや武力では太刀打ちできぬ。そう考えたカイロ知事に、奴隸にして腹心でもある美しき青年アイユーブは、ある秘策を進言する。

——それは、一冊の献上品だった。読む者を狂気に導き、歴史さえ覆す『災厄の書』。読んだ者は、書物の魔力に虜となり、食事も睡眠も忘れて物語に耽溺し、やがてはその身を滅ぼすという。

禁断の魔書を探し求めたアイユーブは、この物語を口承してきた『夜の種族』に辿りつく。そして、夜の語り部である麗しき女性・ズームルッドは、静かに語りはじめる。砂漠の魔都・ゾハルを舞台に、千年の時をこえて織りなされる奇想天外、摩訶不思議な物語を……。

ズームルッドが語り、アイユーブが聴き、書家が書き綴る。口承されたこの物語を、『災厄の書』として完成させるために。

最後の読者に捧げるために——。

**他** 人事とは思えない話だと思いませんか？ ええ、その本好きな人、あなたのことですよ。この文庫版は三分冊なので、その魔力も三分の一？ とはいえ、どうぞご利用は計画的に。ヒストリーとミステリーとファンタジー、嘘と真、剣と魔法、物語と書物……そのすべてがその中に。血沸き肉踊る興奮、美しい嘘に気持ちよく騙される喜び、物語に翻弄される快感をお楽しみください。  
蛇足：著者によれば、この物語は著者のオリジナルではなく、原作者不明の民間伝承を邦訳したものとのこと。でも、それさえも、もしかしたら……。 【清水 隆】

# アラビヤの夜の種族

The Arabian Nightbreeds

暴夜と書いてアラビア。この本は、入れ子状態になった二つの物語がかわるがわるに語られていくという、一風変わった仕立てになっています。ひとつは、侵略軍が迫り来る緊迫感の中、毎晩毎晩、夜の語り部が語る物語を聴く、という現実世界。その語りを書き写して『災厄の書』という本を再現し、ナポレオン(彼は無類の読書家だったそうです)に献上し本の魔力で呪い殺そうという荒唐無稽な設定です。もうひとつは、『千一夜物語』をほうふつとさせる、夜ごと語られる物語。剣と魔法に支配された、アラビアン・ファンタジーの世界のお話です。醜い魔術師が蛇の魔人と契約を交わす話。月のように美しい男と、太陽のように美しい男の話。呪われしゾハルの地下宝物殿の話、そして……。

**物** 語の中に、さらにいくつもの物語があるというつくりになっていて、それらはやがてひとつの大きな流れの中に収められ、すべての謎が解かれるのです。推理はしません。探偵もいません。けれど、魅力的な謎と、あつと驚く真相がそこにはあります。複雑に重なり、交錯した物語の迷宮。手探りで暗がりを進むあなたの前に立ちはだかる畏、畏、そして畏。後戻りはできない。道に迷いつつも謎は解けていき、やがて出口から差し込むひとすじの光明が見える……。それはまさしく、良質のミステリーの読後感と同質のものです。ところでこの『災厄の書』、読むと案られるとか、名前を書かれた人が死ぬとか、そういうものとはちよつと違います。面白すぎず止められなくなるのです。一夜、二夜、三夜……と読み進めるうち、ページをめくる手は早くなり、食べるのも寝るのも忘れて本の虜に……。

## 第83回読書会

平成19年9月16日(日)

午後2時から  
参加者 4名

### 「川べのちいさなモグラ紳士」

フィリパ・ピアス 著 猪熊葉子 訳

(岩波書店)

イギリスを舞台にしたモグラと少女の友情ファンタジー。ベット(エリザベス)はお祖母さんが手伝いをして隣の家で奇妙な仕事を頼まれる。その仕事とは、誰かのために本を読むこと。誰かとは実は三百年も昔から生きているモグラだった。本来モグラはせいぜい長生きしても五年くらいしか生きられない生き物なのにこのモグラがなぜここまで生きていられるようになったのか。モグラは魔法の力によつて考える力や話す力が備わっていて感情もある。しかし、モグラはこの不意に手に入れた力が必要とせず自然の状態(本来のモグラ)に戻りたい。そこで、ベットと協力して本来あるべき姿に戻ろうとするのだが……。

人間とモグラ、地上に生きる者と地下に生きる者の友情物語。

☆☆☆☆☆ 読者感想 ☆☆☆☆☆

◆物語の中に、ウィリアム三世が死んだ理由が乗馬中にモグラの穴に馬の足を踏み入れ落馬して後に死んでしまったと書いてあったので、読んで後に調べてみたら歴史上本当に起こったことだったので、ファンタジーなのにちゃんと歴史に基づいて書いてるので感心してしまいました。

◆魔法にかけられて300年も生きているモグラ。でも、ふつうのモグラ(本来のモグラ)に戻りたいと願っているところ、自分のあるべきところに戻りたいと願っているところがとても印象的だった。

◆Y坊ちゃんは戦争で戻つてこなかったと描かれているが、事実ピアスさんの肉親(夫か兄)も第二次世界大戦の真珠湾攻撃で亡くしているという。なのでこの部分を読んでいるときに戦争がピアスさんの心に深い傷をつけているんだと思つた。前に一度だけ来日したときに「まだ日本を許していないしもう二度と来日したくない」と語っていたそう。

◆モグラに魔法をかけてもらつて、小さくなって地下の世界に行く場面は面白かった。

モグラとの友情が描かれているが、モグラの魔法が消え本来のモグラに戻ったときにはベットとモグラは離れてしまう。その代わりにベットはマディという女の子を見つけたし、もしこの先の物語が続くならベットとマディは友情を育むことができるだろう。人間はモグラと違い「友達を必要とする」とモグラは言っていたが、ベットは初めそうは思わないとしていたが、最後にはマディと友達になれたので安心した。

◆新しい友達を見つけるには前の友達と別れなければならなかったし、魔法を使えるようになったが、その代わりに孫を残すとかのモグラの本能というか本来の姿を失ってしまった。大切なものを得るためには何かを失わなければならないときもあるということを悟っているモグラが紳士的だったよかったです。

◆成長していくには決してひとりではできないのだと改めて思つた。いろんな人との関わりがあつて大

きくなつていくのだと思う。このモグラにしても最初にミスXに出会ったことで教養を身につけることができたし、それが紳士っぽい言動にもなっているんだと思う。

◆前にも思つたが、イギリスの作品はイギリスという国の歴史を知つていないとどつぶり作品の世界にひたれたい。(イングランドとスコットランドの確執や王様たちのつながりなど)逆をいうと歴史を知っていればもっともつと楽しめる作品だと思う。

◆現在は医学や科学が発達していつにかして生きながらえようとしている。体を冷凍保存して未来へと生きながらえようとする人もいるくらいだ。生きながらえることが全くいけないということではない。そうしなければならぬ人もいるだろう。だが、精神には永遠があつても、物質には限りがあることをヒトは自覚しなければいけないと思う。

◆イギリスで出版された日付には2004年とあり、数えてみるとこの作品はピアスさんが84歳のときに出版されている。もしかしたら、もつと若い頃に描かれていたのかもしれないが、80歳をすぎてもまだまだ現役で物語を書いているのには驚いた。読んでいるうちにモグラがモグラではなく、人間の紳士のように思えてきた。

(小林友治)

\*\*\*\*\*

次回の読書会は10月21日(日)午後2時から  
課題図書は

「どろぼうの紳士」

(WAVE出版)

本は図書館カウンターで用意してあります。  
お気軽にご参加ください。